



研修センターの
中庭に咲いた赤
いバラ。花言葉
は「情熱」だそ
うです。

あじけん通信

2016 MAY
VOL.101

株式会社きぼう国際外語学院

企画・編集 澁谷 健司

5月に入りました。先週は、カレンダーを見れば赤い数字の日が並び、テレビにも行楽客の姿が溢れていました。「私たちは、この日学校が休みですか」とカレンダーの赤字の日を指差して質問してくる実習生もいましたが、残念ながら答えは「ノー」。毎年のことですが、あじけんには、GWはありません！この時期は、暖かく、過ごし易い日々が続くので、週末には、近隣の公園に行ってリフレッシュする実習生が目立ってきています。朝夕の冷え込みも和らいできたので、体調を崩す実習生も随分減ってきました。五月晴れの中、実習生の皆さんは、元気に日本語学習に励んでいます。

あじけんスコープ Vol.42 ～あじけん講師ファイル～

今月のあじけんスコープは、昨年末から本校で日本語講師として活躍している新メンバー、黒坂晃平（くろさか こうへい）先生を紹介させていただきます。

去年12月から縁あって日本語講師をやらせて頂いています。授業の中で、或る実習生が日本のエアコンの製作現場を見て学び、国に帰ったらエアコンの会社を作りたい、また或る実習生は、母国の皆に仕事を与えたいから会社を紹介する、今風に言えば派遣会社でしょうか、そんなビジネスを国に帰ったらやりたいと言いました。キラキラと目を輝かせていました。明確な目標は日本語学習の原動力になることは言うまでもありません。

いい教師は噛み砕いてやさしく教え、優秀な教師は興味を起こさせるように教える。また、偉大な教師は生徒が自ら学ぼうとする心に火をつけると言います。そして、生徒の心に火をつけるには教師自らが燃えていなければならないわけですが、どの実習生も燃えるような強いモチベーションの中において、まだ半年に満たない僅かな期間ですが、講師冥利に尽きるような思いにさせられます。この出会いを大事にしたい。また、できる限り続けて行きたい。そう願ってやみません。



今月の実習生



今月はフィリピン料理 CHAMPORADO(チャンポラード)を作ってくれた NITURA JOHN BERNARD VIII AGBAY(ジェイビー)さんを紹介します。きっかけは日本語講習初日に行なわれた会話テストでした。その日の朝ごはんを尋ねると、「チャンポラード」と、聞きなれない名前。どんな食べ物かを聞いてみると「ご飯とチョコレートを一緒に食べます！」とのこと。あまりのミスマッチに、わが耳を疑い、実際に作ってもらうことに。レシピは下の写真の通り。百聞は一見に如かず、30分ほどで、確かにご飯とチョコレートのお料理が出来上がりました！お味は・・・、ご想像におまかせします（頑張って、完食しました！）。

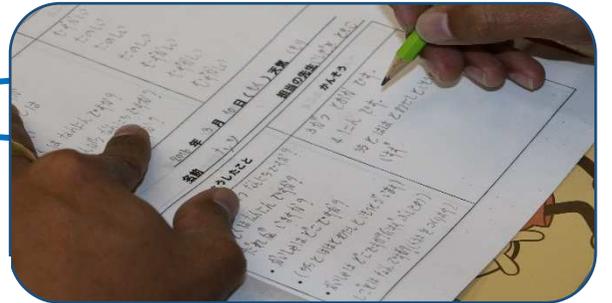
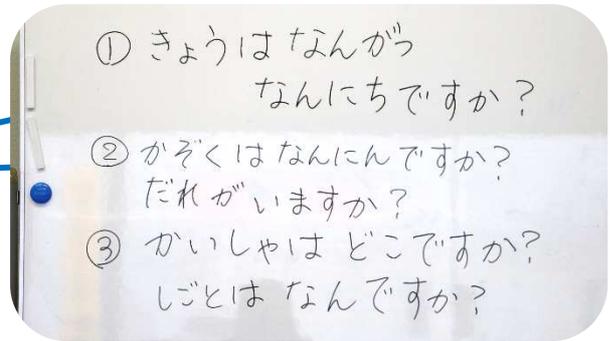
フィリピンでは、家族が集まった時に、朝ごはんではチャンポラードを食べます。少し寒い朝に食べると、みんな、元気になります。焼き魚と一緒に食べると、とてもおいしいです。（ジェイビー）



もち米を火に掛けて30分、カカオのルーを入れ、ココナッツミルクと砂糖を少々！ チャンポラードの出来上がり

あじけん流日本語授業

～読む・書く活動の実践～



「あじけん日報」に先生からの質問の回答を記入する実習生

今月のあじけん流日本語授業は、「読む」「書く」技能に焦点を当てた活動についてご紹介します。本校では、「読む」「書く」活動を、学習内容の定着を図る上で必要不可欠な活動と考えております。また、基礎力の定着を図るという側面から、会話力の向上とも密接に関連している活動と位置づけております。

そこで、口頭でのコミュニケーション能力の向上をサポートする「読む・書く」活動として取り入れられてきたのが、実習生がその日の学習内容を振り返り、一日の感想を記入する「あじけん日報」を活用した活動です。この活動では、「あじけん日報」に書かれた感想を担当講師が読み、内容と文法や表現についてフィードバックやコメントを付けることで、表現力や文法力の向上を図ることが主とされてきました。

しかし、この方式は、実習生の習熟度によっては効果がそれ程期待出来ないことが分かってきました。例えば、基礎力の定着が遅れている学習者は、毎日「きょうはたのしかったです」「にほんごはむずかしいです」などの単調なコメントを繰り返すだけになってしまい、表現力の向上を図ることが出来ないのです。そこで、現在、段階的に取り入れられているが、筆談形式の「あじけん日報」です。ここでは、実習生の皆さんは、自由にその日感想を書くのではなく、講師から出された質問（ホワイトボードに3つ～5つ程度）を、先ず日報に写し、その後、それらの質問について、自分なりの答えを書いていきます。講師からの質問は、実習生との「読む・書く」活動を通じた実践的なコミュニケーションを意識し、実習生の皆さんの実生活に関連した内容となります。また、基本的にその日の授業で扱われた文法や表現が使われている質問になっているので、日報に書かれた回答を添削することで、その日の学習内容の定着度を確認することが出来ます。

この活動は、来日前の日本語学習期間が短く、基礎力の定着が不十分な基礎コースクラスの実習生を対象に導入されましたが、学習内容の定着や、書く活動の補強に役に立つと、講師陣からも好評で、一般コースでも、実習生の皆さんの習熟度に応じて取り入れられています。

※ 当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバー
もご覧になれます